

令和元年度 小学校教員向け環境教育研修会 実施報告

「やってみよう！環境学習プログラム」

第2回「フードロス体感～もったいない鬼ごっこ」(テーマ：食・ごみ)

- 実施日時 令和元年7月30日(火) 10時00分～16時15分
- 受講者数 27名(教員19名、研修・聴講者8名)
- 実施場所 墨田区総合体育館(墨田区錦糸)
- 実施内容

【午前】

1. 事務連絡・開講挨拶等

- ・事務局から受講上の注意、全体スケジュール等の説明
- ・環境局総務部環境政策課から開講挨拶等

2. ゲストティーチャーからの講義

(ゲストティーチャー:公益財団法人東京都環境公社 鈴木晴絵 / 儘田由香氏)

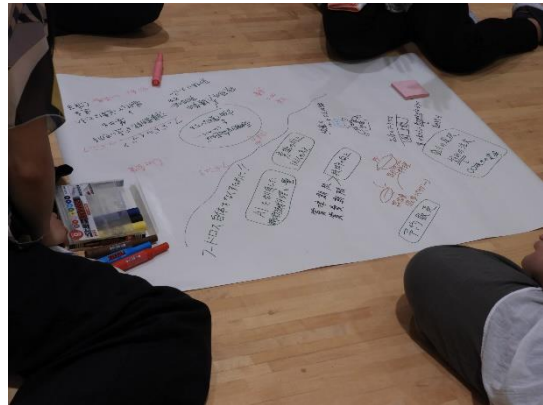
(1) 「もったいない鬼ごっこ」の体験

- ・自己紹介
- ・「もったいない鬼ごっこ」の体験。参加者は「食材」になり、「フードロス鬼」から逃げる。食材が生産され、加工され、流通に乗って消費されるまでをめぐり、無事に食べられればゴール。鬼ごっこを楽しみながら、生産、加工、流通、消費の各段階で起こりうるフードロスの状況等を考えることができる。



(2) 振り返りワークショップ

- ・「フードロスがこのまま増え続けるとどうなると思いますか?」「フードロスをなくすために、何ができるとと思いますか?」を、グループで話し合い、どのような話が出たかをグループごとに発表。



【午後】

3. 世界の食料問題やフードロスの現状についての紹介と活用できるツールのご案内 (ゲストティーチャー：儘田由香氏)

- ・世界で1年間に捨てられる食料は約13億トンで、食用に生産されている食料の約3分の1。
- ・フードロスが与える影響：食料を生産するために必要な土地、水、エネルギーなどの資源の無駄、フードロスによる温室効果ガス排出による環境負荷など。
- ・フードロスの1/4でも有効利用できれば世界中の飢餓に苦しんでいる人のお腹を十分に満たせると言われている。
- ・「世界食料デー」月間やダウンロードツールの紹介。



4. 環境学習プログラム「買い物をする時に必要なことを考えよう！」の紹介及び実習

(講師：NPO 法人環境学習研究会理事長 谷村春樹氏)

(1) 環境学習のポイント ～体験の重要性・森は命のみなもと～

- ・子どもたちは、体験を通して、「森は命のみなもと」であることを知り、自然を大切にする人間に成長する。
- ・環境学習には知識と体験の相互作用が大切。教科学習の土台があるから環境学習ができる。
- ・環境学習は自分の問題として気づきを促す手法。暮らしの中や地域での実践、様々な人と関わることによる成長や感動、ふるさと意識の醸成にもつながる。



(2) 食を考える授業のポイント解説

- ・地産地消や旬は食べることの基本。食べることは、生きることであり、命について考えること。
- ・食べ物と自然のつながりを知ることも大切である。都会に住むと自然とのつながりを感じにくい、食べ物はすべて自然の恵みであり、命は自然に支えられている。
- ・食育は正に命の学習であり、食べられることや自然への感謝の気持ちの醸成につながる。

(3) 「買い物をする時に必要なことを考えよう」プログラム紹介と体験

- ・フードロスというテーマを切り口に、食材を買う時に必要なことを考えることで、自分の家族に合った無駄の少ない食材の量を考える。また、産地、旬、ごみ等についても考え、食の大切さを知る。
- ・今回はキャベツを用意し、1個、半分、パック詰めのうちどれを買うか、その理由を考え、班で話し合い。新鮮なうちに食べ切れる量で選ぶ、時短のためカット済み野菜を選ぶなどの意見があった。



(4) まとめ（質疑応答及び受講者同士の情報交換）

この日の研修を通じて、気づいたこと、感じたこと、授業での活用方法や各学校で実施した関連事例等について、グループごとに発表し、受講者で情報を共有。



(発表意見の例)

- ・教科書は生産者目線で作られている。この授業は、消費者目線だと感じた。体験を通じて、子どもたちも消費者目線になる。
- ・いつでも何でも買える時代である。もったいない鬼ごっこでは自分が食材になりきれるので、子どもたちに認知させるために実践してみたいと思った。
- ・もったいない鬼ごっこの活用について、給食の残菜に重きを置いてみたらどうか。栄養士との連携も必要。
- ・自分の体の成長とフードロスに関連させてはどうか。成長には栄養が必要→給食は栄養について考えられている→残すのは良くないと結びつけるなど。
- ・子供はもったいないという気持ちを持っているのか。もったいない鬼ごっこで、食品になりきることで、捨てられた食品の無念さが分かるようになると思う。

5. 事務連絡、アンケート記入等（事務局）

アンケート提出後、解散